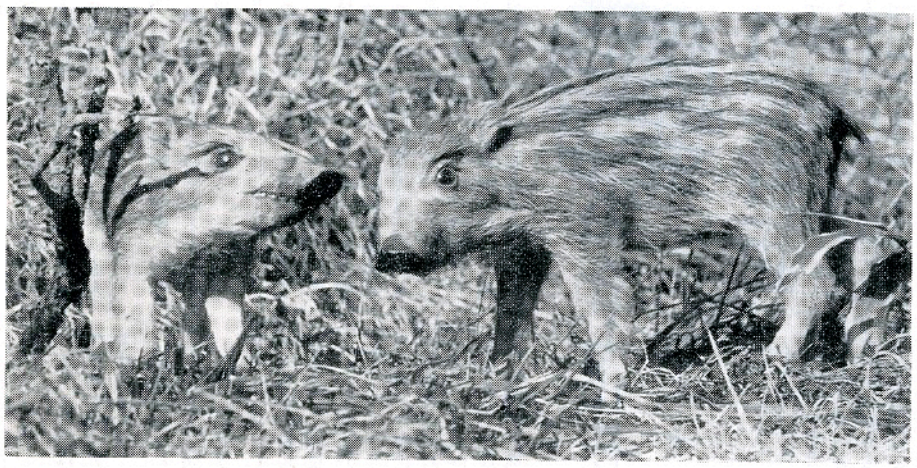
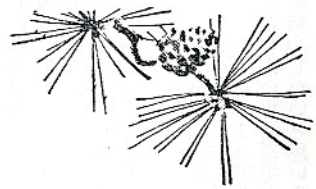
広報
さめがわ

1971
1月号
No. 206
編集兼発行
鮫川村総務課
塙町・佐藤印刷所



今年は『亥の年』……明けましておめでとうございます

12支でいう亥の年はぼくの年です。みなさんには12年ぶりでおあいするわけです。
「猪突猛進」といわれるとおりぼくは、むこう見ずなところがありますが、1971年はみなさんとともに正しい目標を目ざして、豊かで平和な村づくりに突進したいと思います。
どうぞよろしく……



☆ 1月のこよみ ☆

1日　元日、交通事故ゼロの日
4日　官公庁御用始め
6日　消防出初式
7日　七　草
15日　成人の日　(成人式)
21日　大　寒
27日　旧元旦

◉第3日曜日は「家庭の日」です。

昭和四六年元朝をことほぐ

山なみのはるけき遠に雲わきて
　いまおごそかに初陽はのぼる
ふるき代のためしに添わむこの朝
　霜しるきみちやしろに詣ず　(曙峯)

投入れて梅影かたき陶の壺
水の音きき新春の障子影　(斗暁)

今月の人口

人口	6,679 (－6)
男	3,388 (－3)
女	3,291 (－3)
世帯	1,217 (＋1)

成人と国民年金

成人おめでとう!!

一月十五日は成人の日です。この日は「おとなになつたことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年のみなさんを祝う日」として今年も、一月十五日に成人式が催されます。二十才になると成人としての権利が与えられ義務が課せられます。この義務の一つに国民年金への加入があります。ただし次の方々は希望で加入することができます。

一、会社や官庁に勤めて、厚生年金、船員保険。共済組合などの公的年金制度に加入している人の配偶者

二、公的年金（恩給）制度から年金を受けることのできる人の配偶者

一家の働き手が亡くなつたりしたとき、老令年金又は障害年金、母子年金などが、その本人や家族の方に支給される生活の保障制度です。

加入の仕方はご本人か家族の方が役場に印かんを持参して届出ればできます。

保険料は一年を四期に分けてつぎの期限内に納めます。

一期（四月～六月）4月25日迄
二期（七月～九月）7月25日〃
三期（一〇月～十二月）10月25日〃
四期（一月～三月）1月25日〃

保険料は積らぬように各納期に納めて下さい。

◎村では国民年金保険料完納運動を行つています

年金は自分のものです。老後をしあわせに送るため、保険料は期間内に必ず納めましよう。

◎福祉年金の支給月です。

一月六日、郵便局の窓口で受取つて下さい。「手帳と印かんを忘れずに」

善意の一円玉 四、五〇〇円

鮫中生徒が堀川愛園へ

棚倉町にある養護施設堀川愛生園の子供達にあげて下さいと、十二月十八日、鮫川中学校生徒会長鈴木利恵子さん、会計係の関根ちか子さんが役場を訪ずれ、才末たすけあい募金を拠出しました。

これは、年間を通じての鮫中生徒会の「一円玉募金」によるもので合計で四、五〇〇円もの金額になつたものです。

この募金はさつそく堀川愛生園におくられ、大変感謝されました

おめでた

十一月
大塩 大楽 勝之 父 勝弘

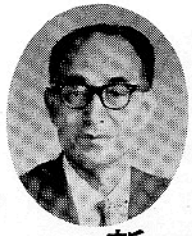
十二月
摺合 芳賀 康子 父 重光
官沢 矢吹 昭夫 〃 光雄
官沢 矢吹 和夫 〃 光雄
新宿 須藤 康夫 〃 宏

おくやみ

十二月
青生野 武藤 カネ 69才 世帯主 力蔵
追木 水野 ヨシ 80才 武雄
田中 国井万之亟 84才 卯吉
石井 塩田 助夫 60才 昭一
道少田 生方作次郎 76才 利夫

新しい年にかける期待

村長 石田卯子八



（45）

激動と変革の世代に入る第一年といわれた一九七〇年をおくり、ここに昭和四六年の新春を迎えました。今年もまた皆様のうえに幸と栄光の豊かに訪れますことをお祈りいたします。

昨年は、国の農政が大きく転換することが予想されたのでありますが、米の生産調整という形でその第一弾が放たれました。

このことは、昨日まで米の増産をすすめてきた政府、指導者側にとつてまことに苦しい窮余の施策であるとともに、いつも忠実にこれに従つてきた農家にとつては晴天のへきれき以上のショツキングな方策でありました。

しかしわが村に示された減産目標は二二五tであるのに対し農家の方々の協力は二六二tという事実で表明され一一六・八%の実施率となつたのであります

一方天の配剤は人間社会の工作にはおかまいなく、稲作気象は概ね順調に推移し、特に結実期の好天続きは、山間高冷地までみのりを豊かにさせました。

結果的には、六六・八六ヘクタールの稲の作付を制限しても、総収量においては、昭和四四年度を超える実収となり、政府売渡米も三万俵を上廻るではないかと見られております。

この事実は、農政の難しさを証するもので、机上プランが容易に通用しないことを物語るものでもあります。

新しい年に対米生産政策がどのように打出されるかは、まだ新聞報道の域を脱しませんが、昨年の二倍程度の減反面積を予想せざるを得ないかと思われます。

昨年のような単純休耕に委せることが多ければ、農地の荒廃、所得の激減は免れず、今か十分に案を練り、地域性に即した集団転作——新しい主産地の形成・営農構造の再編成に進まなければなりません。

今年は、いろいろな面で多事多端な年になるものと思います。

昨年末郡内各町村議会は、それぞれ白河地方広域市町村圏整備組合に加入することを議決し、東白川地方を含めた広域市町村圏が発足することになりました。

この行政機構が、単独の市町村に代つて広域処理を行う事業の中で、常備消防、道路補修センター救急施設などは、着々実施に移されることになりましよう

また山村振興法による振興山村の事業計画は、この年を第一年度として、向う四年間に実施することになります。現在この事業枠に入る限りの総合開発事業を織込みたいとして努力しております。

いずれ過疎法の適用もうけることになるものと考えられ、現行制度下の各種指定や機構が集中して来る感じであります。

しかし広域市町村圏にしても山村振興にしても、また過疎対策にしても、これを前向きに活用する意欲と努力のないところに、実を結ぶことはあり得ないのであります。

年頭に当り、村民皆様の英知と協和に期待し進んでこの多難な局面にとりくみ、より明るくより豊かな村人の生活環境をつくるため努力したいと思います

ふるさと



(1)

強滝峠

中井恒峯

古くから新宿、広畑を起点に四方に通じる街道のうち東方に向つての勿来に出る遠ヶ竜峠、南方は青生野峠や江竜田峠、西方には棚倉街道の仏坂峠、それに浅川街道の本坂峠があり、北へ石川街道が伸びている。強滝峠は、そのうちの一つ石川町や常磐地方に通じる坂道である。

鮫川八景の一つ

強滝峠は本村中では比較的短かな峠である。景色も良い。特に鮫川の清流を左に見て登る景色は美しい。強滝には各所に滝の名前がついていて、男滝、女滝、子供滝大滝、小滝など四十八種類にもなり鮫川八景の一つとなつている。昔は清流に赤い橋が架つており氏神様もあつて秋の紅葉はみごとなものであつた。現在は道幅が拡張され、車の往来が多く昔のようなオイハギの出そうな峠の感じはないが峠の中ほどに、「ぶな」「なら」の古木林が往時のおもかげをわずかにしのばせている。



特産物を運ぶ重要なルート

鮫川村の特産物は時代によつて大きく変つてきたが、常磐、石川方面への米、まゆ、タバコ、木炭木材、家畜など、また鮫川村への塩や魚、その他生活必需品の移入路として重要な役目をもち、鮫川と常磐、石川地方を結ぶ経済交流のメインルートになつている。

鮫川の未来像

鮫川の未来はこの峠の近代化にかかつていると思われる。鮫川縦断道ともいうべきもので、この道路を主体とした観光開発こそ急務である。完全舗装の実現、そして民芸品などのおみやげ品の里として、わらじ、みの、うまぞうりなどのわら工芸、竹工、木工、山菜などの食品など、観光を目的とした製造も行ない、畜産との共合、そして温泉郷との結びつきをうまく考えれば新しい文化村鮫川の未来は切り開かれる。

強滝での思い出

昭和二十七年頃夏になると私たち中学生は強滝での川遊びを一つの楽しみとしていた。当時は峠には店もあつて金を出し合つてはイモアメを買つた。白い粉のついたアメを口に入れながら、パンツ一つでまずはウナギの子供をつかまえるのである。ウナギの子供は大滝の滝つぼの石の上に数百匹もいてそーと近ずいて手拭で捕えるのであるが、なかなかつかまらないあきれはて、あとは滝つぼの一番深い所で水泳の練習である。お陰で当時のガキ大将は皆カナヅチにならなくてすんだ次第だ。

世はまさに公害時代だ。鮫川だけは公害のない村に、そしていつまでも川遊びの出来る鮫川の清流であることを望んでやまない。

(福島テレビ勤務)

人口減少にめげず豊かな村づくりへ

議会議長　藤田卓三



昭和四六年の新春にあたり村議会を代表し新年のあいさつを申し上げます。

私は芳賀議長の後任として、わずかな期間ではありますが議長という重責をになうことになりましたので、宜しく御協力をお願い致します。

一九七〇年代に入り高度成長をつづけてきた我国にも赤信号がともり家庭電気器具繊維業界におおきな影響を与えており、農業も米作の一割減反が打ち出され、本年は更に二割減反が予定されているなど、新聞紙上などで報道され一九七〇年代の見とおしは決して明るいものではありません。

昔から景気の良い悪いは十年ごとにくると言われていましたが現在では、あらゆる分野で高度な情報化時代に入り、昔の十年は一年に四敵する時代になり農業もこの波にのつてゆかないと維持できない状態になつてきたと考えられます。

本村も昨年の国勢調査人口は六千四百人台になり、今後も減少をつづけると思われますが、あらゆる面に創意工夫をこらし少数精鋭主義で、明るい豊かな村づくりに邁進してゆきたい考えです。

村議会といたしましても理事者と協力し本村の進むべき道を見出すべく努力していますので村民の皆さんの一層のご協力をお願いします。

歳末たすけあい

募金ご協力に感謝

みなさんの温かいご協力により目標額六三、四〇〇円を六、〇四〇円超過して達成しました。

早速恵まれない方々に、たのしいお正月を迎えられるよう配分いたしました。ご協力に深く感謝します。

また期間中に赤坂東野字蕨ノ草の渡辺春江さん(鮫中三年生)はお小使の中から一、五一二円を困つた方々にあげて下さいと村役場に寄託して、関係者を感激させました。

寄附のお知らせ

東京都の佐藤大助さん(赤坂東野遠ヶ竜出身)から、統合中学校新築記念にと、大きな掛時計を寄贈されました。

※

北海道札幌市の瀬谷竜さん(赤坂中野大塩出身)から鮫川小学校の図書購入費として金壱万円寄附されました。

紙上から厚く御礼申し上げます



本村産業の未来を語る

各作目ごとの営農集団化
基盤整備で省力化へ

昨年行なわれた米の生産調整を転機として農業の将来に不安がもたれてきましたが、これに対処して、米のみに頼らずに農家所得を上げる方策を見出そうと、それぞれの分野から、本村産業の代表者の方に集まつて頂き、石田村長司会のもとに座談会を開きました。次にその要旨を掲載いたしますので村民の皆さん方のご意見や、ご批判を編集部総務課内までお寄せ下さい。（文中の敬称は省略させて頂きます。）

たばこ収納代金一億円に

司会　今日はそれぞれの分野で本村の産業を支えて頂いている代表者の方にお集りを願い、わが村の産業の未来像を語つて頂くことにしました。

先づ、重要産業の一つであるたばこについて、今年はたいへん収納成績が良かつたようで、その結果からみて将来の計画など水野馨さんからご意見をお願いします。

水野　今年の収納代金は全部終つた地域と二分の一の地域を合せて現在のところ、**五**、七五六万六三七五円という数字になり、二分の一収納の地域は反当り平均七万一千円なので五五町三反七畝が耕作されているので、今年のうちに一億円の目標は達成できる見とおしがたつたわけです。

来年の作付は割当面積は七〇町歩が予定されていますが、現在の見込みでは二〇人ほどやめる人があり、一五〇人ぐらいになり、六〇町歩そこそこになつてしまうのではないかと思われますが、何とかこの実績をもとにして耕作者の皆さん方に協力頂き割当面積を消化してゆきたい考えです。

司会　いちばん多く耕作している人の面積や賠償金はどのくらいになりますか。

水野　阿久津春男君の八五アールで、二分一収納で七〇万円だから一五〇万はかたいと思います。

司会　耕作者一七五人の平均だと一戸当り五八万円ぐらいですが、百万円をこす人は何人ぐらいになりましょう。

水野　大体二七人ぐらいになる見込みです。

コンニャクの価格、上向きに

司会　本村の特用作物は、昔からたばこ、コンニャクとなつていますがコンニャクの話を農業委員会長の関根信政さんにお願いします

関根　コンニャクは本村としては特用作物として欠くことのできない所得の道と考えている。生産段階では塙町に試験場ができてから指導を受け、最近では昔のような病害や、玉昆で失敗するというような例は殆んど解消されて生産が高まつてきた。ここ四年位値段が下落しており、生産意欲を失なつたような感があつたが、今年になつて上向きになり、やはりコンニャクでなければならないという生産者の声もでてきています。



司会　農協からみてコンニャクの生産量はどのくらいになるか、組合長さんから

藤田　まだ生玉と荒コンを一回しか販売していないのではつきりした数字はでていないが、十二月十日現在で農協取扱いは一、三〇〇万円ぐらいです。コンニャクは戸倉と青生野が主な産地ですが、昨日青生野に行つたところ、コンニャクだけで百二十万円とつた方が二人ほどありました。

司会　反別を多く作つている人は何駄位の出荷になりますか。

藤田　確実な数字は分りませんが青生野で一〇駄が一人、一一駄が一人いるようです。

山をおこして桑園に

司会　次に構造改善事業で基幹作目に選んだ養蚕にうつり、高坂正雄さんから今年の作柄と、これからの計画をお話し願います。

高坂　維蚕飼育所の飼育が一年ごとに成果をあげ違蚕ということが全然考えられない状態になり、本年度は繭で一、七六六キロをあげることができました。これを機会に頑張つて年間二、〇〇〇キログらいの養蚕をやつてみようという家族の考えです。桑園は畑地でなければなりたたないということはない。私の家では約一町歩の山をおこし、五千本の桑苗を植えて、春、晩秋蚕で二五〇グラムの蚕をおける桑園ができました。どこに行つても、こういう利用をすれば年間四〇〇キログらいの繭はとれるのではないかと考えています。今年は減反のために田一反歩に桑を植えたが、米では七俵しかとれないが蚕であれば繭一二〇キロはとれるので、米を作つたより有利です。

司会　年間何回飼育で、手間はどの位使いますか

高坂　四回で六〇人位の手間をかけています。

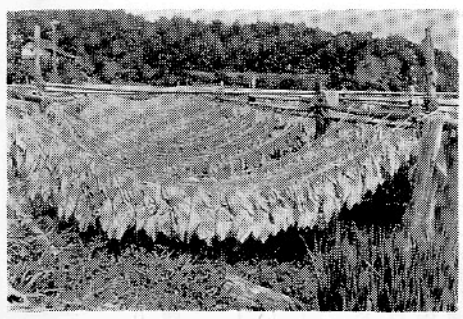
司会　養蚕は昔から本村の重要産業ですが、現在村の養蚕農家や生産量はどの位になつていますか、農協の組合長さんから

藤田　四五年度には三一〇戸、別系統の会社に三〇戸位あるかと思います。今年の収繭量は農協取扱いで五万キロ、六千二百万円位のところです。

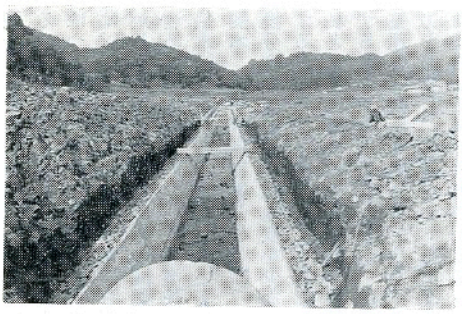
肉用牛の主産地形成

司会　養蚕と並行して和牛、このごろ肉用牛といわれていますが、これについて鈴木一実さんにお願いします。

鈴木　和牛でもうかるということにはいかないと感じますが、先ほどから云われている作目を主体として、それにプラスしてやるなら効果的であると考えています。



それは本村が牛を飼育するのに地の利に恵まれているということです。他の地方では減つているのに本村では伸びていることからみても地形上に有利な面があるからでしょう。肉の需要は食生活の向上にともない伸びているので今後は広島、島取のように生産地を形成してゆくべきだと考えます。最近肉用牛の価格安定制度も設けられて来たので、今後とも欠かせない産業でしょう。これからは優良子牛の生産から肥育までやり、肉の主産地として形成し、有利に販売するという面から畜産組合を強化してゆく必要があると考えられます。



酪農は多頭化に

司会　肉用牛はいつももうからないという話になるがこれはもうかるまでやつていないのではないかという気がする。繁殖、育成だけでなく、肥育して肉にして売るというところまでやらなければ、もうけは少ないと思われます。

司会　次に酪農に入りますが、酪農組合長の矢吹清敏さんからお話し願います。

矢吹　酪農も、たばこと同じで戸数は減つているが、頭数は減らず多頭飼育の方向にある。やめる人はやめて飼育農家がはつきりしてきたと云います。頭数は約五〇〇頭で、生乳の他に雄牛の肥育も行なわれています。乳代はあまり高くなく、飼料は非常に高くなり、北海道などでは減少しているとのことです。

乳牛は経済動物で山に野放しにしておけないし、飼料を与えなければならないので、現在はあまり魅力をもたれていないと思います。

司会　現在、農協が取扱かつている乳代金は年間どのくらいになつていますか。

藤田　はつきりしたことは分らないが、月二五〇万円程度かと思います。

蛭田　東白川、石川郡酪を含めて本村の乳代は年間五千二百万円ぐらいになると思われます。

司会　酪農に終戦後いち早くとりくみ、理想的な経営をしている蛭田正さんから、ご自分の経営からみた今後の方向をお話し願います

蛭田　近年、酪農家の戸数は減つているが頭数は減らず平均で一戸当り四、五頭、郡酪の三分の一を占めており多頭化の方向にあります。本村で一番収入を上げているのは蛭田晃さんで六頭で約三万キロ、一五〇万円、これは乳代だけで子牛が一六ケ月で三一万円位になつています。

その他に一〇〇万円ぐらいの収入を上げている人は相当あります。

これに対して購入飼料は約三〇%から三五%位で労賃をみると失くなるというのが現状です。

系統の良い牛を持つている人が乳も出る、子牛も高いということでこれからは系統の良い牛を選び経営を伸ばしてゆくべきでしよう。

私の場合は息子も卒業したので酪農を中心にやつていこうということで一二頭入れる牛舎を作つており、目標は三百万円の粗収入をあげることです。

なぜ酪農をやつているかというと他の作物と較べて比較的に機械力が利用できるので労力がかからない。

飼料の確保さえ十分であれば、やつてゆけるということで進んでいます。

米の生産調整で田を草資源に転換することも考えています。

そ菜の価格保障を

司会　そ菜に移りたいと思いますが、白坂清美さんから経験談などをお願いします。

白坂　二年ばかりやつていますが夫婦二人で容易でありません。

昨年はエンゲンを軸として栽培しましたが、一時的に忙しく他の仕事に手をかける余裕がなく、それに値段の変動が激しいので、いくらか痛手を受けています。

それでもエンゲンは好評なので山間高冷地の特産物として伸ばしてゆきたい。

反当三十万円ぐらいになります。

一昨年はトウモロコシを栽培したが過剰で安く、手間にもならないので、家畜にあたえてしまいました。

そ菜も最低価格を維持できるなら耕作者の希望もわくわけだが、過剰になれば元もとれないという変動の激しさなので、若い者は目の前の賃金とりに、こだわつてしまう。

何とか農協あたりで最低価格保障の構想を検討してもらいたいと思います。

司会　そ菜の販売額はどのくらいになつているか、農協組合長さんから。

藤田　エンゲンが二、二〇〇万円馬鈴薯、四二〇万円、バンタム、一二〇万円で、市場で好評なのはエンゲンで、今後も伸ばしてゆきたいと考えています。

司会　そ菜に関しては特に価格の変動が激しく、時に生産費を割ることもしばしばあります。

これからは制度のうえからも検討を加えてゆかなければなりません



土地改良で効率的な経営

司会　ひとわたり本村の主要な産業をとりあげましたが、ここらで米の問題を岡部さんからおねがいします。

岡部　米は二年間、米価が据えおかれ、昨年から減反による生産調整が行なわれている現状というものを、合せて考えてみると農業の将来性が失なわれてゆくのではないかと思われます。

私は平均一割減反というのはおかしい。

転作可能な地域は転作し、本村のように転作不可能の地域は、良質米を作る地帯として指定すべきであろうと考えます。

司会　農政の中心問題になつている米の問題は、まだ政府の態度もはつきりしていないので、現状では、対策を樹てるのも非常にむずかしい状態です。次に米の問題を含めて土地改良について理事長の船木操さんから、お話し願います

船木　土地改良事業としては、交換分合を促進し、団地数を少なくするということは結構なことだが私としては第一に土地条件を整備することが大事で暗渠排水、区画整理と同時に交換分合をして、労力を節減し、生産コストを下げて効率的な経営で所得向上をはかるということに持つていかねばならないと考えます。

農村振興のビジョンを

司会　今までは農業だけのお話であつたが、幅を広げて農外収入をどのようにして得るかという問題に入るが、商工業との関連もあるので、商工会長の湯坐伝さんにご意見を伺います。

湯座　本村の人口が六千四百人台に減少したので、商工会も苦労する時代に追いつめられてきています。先ほどからのお話しと、今後の未来を語るということについてふれるなら、村から一つのビジョン的なものを出して貰う必要があるのではないかという考えを持つています。

その意味で申し上げれば、広域市町村圏への参加、山村振興法による振興策、過疎対策指定村としての事業、或は主産地形成の問題、総合農政と阿武隈開発ということが、いつしよに進められていけば農家が将来に対する意欲もわいてくるのではないかと思います。これらの事業が進められ農家の所得が向上すれば私たち商工会も浮ばれる時が、くるのではないかと考えます。

良質米の生産を

司会　ビジョンをこちらから申し上げることは後まわしにして頂いて、若い時代から藁工品や、籾摺などの加工農業に経験をお持ちの北条正人さんから、長年の体験をとおしてみた、本村産米の将来についてお願いします。

北条　今後の村の米づくりですが、本村の米質は、他町村の米どころと比較してみると同じ三等級でも全然違う。農協組合長も承知と思うが、酒屋さんと取引してみたが鮫川の米は自主流通米には駄目だと聞いています私たち業者としても、そういう観点からみると品種をかえれば良い米ができるだろうということでなく、米質そのものに問題がある。たとえば越虫や青生野などの高冷地の米は三等の等級をつけたものの、うまくなくて食われない、ということで、こういう所は転作をして土地に適応した作物を作るのが良いのではないかと業者の組合でも考えている。村としても適地適作主義で良い米を作り政府から喜ばれて買われるようにしてゆくべきだと思います。



司会　長い間の経験から生れたご意見で大変貴重なお話です。

高冷地の稲作は転作すべきだということは一応はいわれるが、これは大きな問題で、転作するには資本、技術、労力、融通などの条件が整わないとできない。しかし困難ではあるが考えなければならぬ時期にきていることが感じられます。

これでひととおり各部門ごとの代表の方のお話しが終つたのでお互いに質問を出してみて下さい。そのあとでまとめてゆきたいと思います。

岡部　水野さんにたばこについてたずねます。省力栽培を考えているようですが、現在以上に省力作業ができるものでしようか。

水野　技術的な問題は良くわからないが、省力というのは協業協同に重点をおき、共同育苗、基盤整備、それから幹干し乾燥の普及、来年度から行なわれる無結束納入などで一〇アール九三人かかつていたものを五二人にするという公社の構想です。それにパイプハウスという共同調理センターを補助金三分二を受けて四七年に作る予定があります。

若者に魅力ある農業に

蛭田　今までの話を聞いてみるとたばこ、コンニヤク、酪農などそれぞれの集団地帯を作つてゆかないと伸びないのではないでしようか。

水野　たばこは、だいたい集団化され固定してきています。

矢吹　たばこ耕作者が減つているというのは若い者に魅力がなくなつたからで、たばこの生産地であつた平田村などでもだいぶ減つているようです。

蛭田　若者にきらわれるのは酪農も同じで、夫婦そろつて旅行もできないということもあり、最近はヘルパー制度ができて組合が責任をもつて牛のめんどうをみるというようなことができています。

矢吹　本村のような高冷地帯では適地適作でゆくより他にないと思うが村長さんに努力してもらいたいと思います。

司会　これについては昨年あたりから農業生産の地域分担制を早く樹立すべきであるという要望を、全国町村長大会その他農業団体からも出しております。このほど農林省が農業生産の地域指標の試案というのを発表したが、歯止のない素案で感心しません。

（以下各作目についての見とおしと対策、山村振興法、広域市町村圏、過疎地域対策の事業計画などについて説明がありましたが紙面の都合で省略させて頂きます。）

各作目を一億円台に

司会　最後に一言位づつご意見を伺います。

藤田　本村では作目ごとの団地化が必要であろうと考えます。農協としては先ほど申し上げたように馬鈴薯、そ菜はエンゲン、食用トマトの団地作りに的をしぼつて米の転作に対処したい。

それから特産物としてコンニヤクたばこの他に、しいたけ、なめこもとりいれてゆきたいと考え、団地造成を着々と進めています。

養蚕は本年六、二〇〇万円ですが三ケ年計画で一億円台にのせてゆきたい。そ菜についても一億円台にのせてゆきたいと考えています

畜産については一セット五頭の乳オス肥育を



重点にして進めてゆきたい。団地造成については難問題がありますが、村当局を始め皆さん方のご指導ご援助を、お願いします。

五年後に児童百名は一校だけ

司会　教育委員会から何かお話し願います。

水野　教育関係でも将来の見とおしをたてるために、種々の調査をしています。本村の人口減少にともない、入学児童が非常に減ってくるという状態で、五年後には全村で八十七名になり、離農者を含めると八十名前後の入学者しか見込めません。学校数の多い本村の教育を進めるにはどのようにしたらよいか問題です。五年後には百名以上の小学校は、鮫川小学校だけという数字になっています。こういう状態ですので教育問題について今後ともご協力をお願いします。

総合的な村民休養施設を

蛭田　農業後継者のことについてお願いしたいことは、先ほど申し上げたように、これからの若者に意欲をもつて農業に従事させるには、レジャーを与える場、いわゆる村民全部の憩いの場所を造つて頂きたいということです。

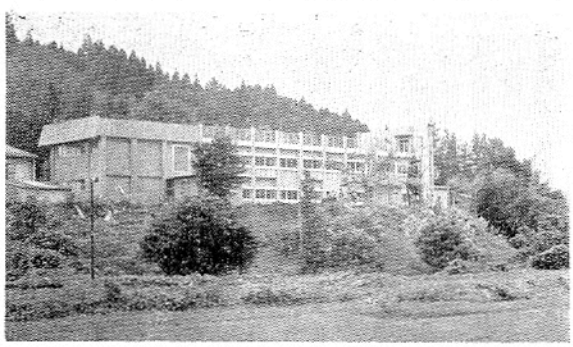
司会　広域市町村圏構成のことでも問題になつたが、郡内にはまとまつた建全娯楽の施設がない。本村では過疎地域の法律適用を受け観光とあわせて、総合的な村民休養施設の設置を考えています。最後に藤田議長さんから。

藤田　私も商業も営なんでいますが、本村は年々人口が減つてゆく状態で心細く考えているものです残つた皆さん方が産業開発に創意工夫をされまして今までより所得を伸ばし、生活水準の向上をはかつていかれれば、私たち商工業者としても恩恵に浴することが大きいので、人口が減つても少数精鋭で所得を上げ豊かな生活をされるよう皆さんの今後の努力をお願いする次第です。

司会　お忙しいところ長時間にわたり、非常に広範な問題について皆さん方の日ごろの、ご研究ご体験の成果をまじえ、抱負をおきかせ頂き誠にありがとうございました。（完）

座談会出席者
（順不同、敬称略）

藤田卓三　岡部伝
船木操　鈴木一実
蛭田正　湯坐伝
北条正人　関根信政
藤田秀男　高坂正雄
白坂清美　鷲野谷己之二
矢吹清敏　水野馨包



近代化された
渡瀬小学校

教育に目を

昭和元録の夢を破つたのは、イタイイタイ病、カドミウム汚染、ヘドロ等の公害問題であつた。毎日の生活に何らかの影響を身近かに受けるようになつてその防止を考えねばならなくなつたことは本当に困つたことである。

さて学校の公害（？）的な問題点はどうであろうか。

まず第一に児童数の減少である人数が少なければそれだけ盛りあがりの少ないことは自然の理である。教育効果をあげる適正な児童数を確保したいものである。離農若者減少、出産数などいろいろ原因はあろうが過疎化における問題の一つである。

つぎに、親の出稼ぎなどによる子どもの教育的問題である。経済の成長に伴う生活の向上をはかるために現金収入の手段を考えることは当然であるが、このために子どもの教育がおろそかになつては子どもの不幸である。父親の出稼ぎのために子どもの性格が不安定になつたり、両親の出稼きのため「鍵つ子」となつて問題を起しやすくなつたりするものである。

つぎに授業参観などの出席者が少なくなつてきたことである。子どもの学習活動をよく知つて教育問題を考えるということは昔も今も変らないものである。年々学校にくる父兄が少なくなることは学校教育上重大な問題ではなかろうか。

いろいろ問題が多くなつてきたが、要は、子どもの幸せのため、学校父兄地域が真剣に話しあわなくてはならなくなつてきたことである。ともあれ、学校の教育活動が年々広がり、教師も大変忙しくなつてきたものである。

富田小学校長　橋本久司

農村人材銀行

離職転職者や出稼労働者が最近増加しています。

このため職業安定機関と町村等の機関が密接な連携のもとに、円滑な他産業就労の推進を図るため「東白川地方農村人材銀行」が設置され一〇月一日から活動を始めました。

相談員は二名で交替で行外活動に従事しています。

当面は出稼対策を中心に気軽に利用されるよう望んでおります。

○開行日
毎週月、水、金の三日間
（金曜日には職安職員が出張）

○場所
塙町農業委員会事務局内
電話　塙局　一四〇番

○相談員
石井兵蔵　塙町大字真名畑字向猟師二八
松本博光　塙町大字田代字中里

文芸

短歌

十二月詠草



朝起きて顔を洗えば井戸端の彼岸桜の紅ふふむらし　照親
茶羽織を土産に持ちて里帰り喜ぶ母の顔浮びくる　京子
縄のれん汚れて寒く政論にホルモン焼の弾力を噛む　良二
出稼ぎて帰らぬ家の畦豆は引かれぬまゝに雪を被りぬ　ミキ子
葉煙草の収納に行く若夫婦今朝は一そう睦まじく見ゆ　モト
朝まだき煙りたなびく沢合に炭造る人ら暮急忙し　七星
来る年の減反愁う座談会すべなきまゝに冷酒汲み交う　家満寿
離農者の山田買い取るものもなく雑草茂り山兎跳ぶ　好幸
堀り下げて物思ふこともなくなりぬ生計(たつき)せはしき明け暮れにして　市作
ゆく人も見送る人も手をふりて師走の風に出稼ぎは発つ　継緒
愛着のまだある土地を売らむとし鴉たゝせて田の畔を歩む　忠男
癌手術命及ぼすこともなき老父は登記の判おし賜う　斗暁

俳句

十二月雑詠

朝早く啼くきじの声向山　照親
雪空に待てど帰らぬから鳩舎　ミキ子
休耕のなき言をきく秋の暮　兼光
猟犬を馴らす裏山銃持たず　実
牛に藁ひざまで込んで雪降り出す　モト
ふりむくや雪につきくるよその犬　貞子
人去りて又来る小鳥あぜ清水　福太郎
凩やひとり笛吹くはぜの竹　カネ
狐鳴く声近づきて雪しきり　良一
病む父の咳きこえくる離かな　牧仙
引越の植木まとめにふぶく雪　弘嶽
雪やけの顔むづ痒き対話かな　七星
干柿の彼方木枯しと月明り　仁王
鳥の巣を天に押上げ木の細り　句仁志
豊作や野良着の絣妻老いず　吟月
広き土間槌棒一つに冬迫る　五黄
稲架棒の子ら天に脚投げており　久月
刃こぼれし鉈ふりあけて火の粉　良二
秋日和石大きくて蛇迷ふ　羊羊
月の軒熊手さしたる木の葉籠　斗暁

鮫川史（26）

棚倉鉄と陶土の沿革

国島義広

神世既に「天之根戈」あり、之れは鉄剣であつた。

成務天皇の五年の事、「塩伊及已自直」を白河に派して国造りを置く。当時の武器は鉄器で、国を道奥と称し孝徳帝の大化二年丙午（六四六年）国造を廃し国司、郡司を置く。

元明天皇の和銅二年（七〇九年）に白川郡が高野郡となる。その高野郡より鉄を多く産すと旧記に見ゆ。鉄の源は遠く神代に遡る。石器が銅器となり、又鉄器と変つたのは約三千年前の事で、後鳥羽帝の文治四年（一一八八年）、結城親光白河に封を受けて（此の頃は又高野郡が白川郡に復している）棚倉鉄として其の名高く評価され、陸奥の刀工好んで此の鉄を使用す。（出羽月山の刀工）

其の採鉄の跡、鞴口、金凝が鮫川の地の各所から出ている。去る日金沢次長と同伴、共に其の調査を行つた結果左の如き証査を得た先づ富田鍛木田の地を始めとして芦ケ平、大清水、野土平、長登呂安蔵小屋、閻ケ沢、熊ケ岳、雁沢鮫ケ池、福原、田尻、中山、江竜田、大土中、関口、越虫、世々麦旭山、十日塚、赤小名、娑平、古田、五枚沢、戸の木、滝ノ入、大竹、西坂、伊柳沢、唐路、大石草遠ケ竜、石井草、金凝、山口、折戸、滝ノ下、塩倉、荻の沢、殿山岫長、火打石、石神、草牛等々、未だ調査の届かない所が数十ケ所に上ると見られる。

又これ等の場所からは必ずと云つてもよい位、弥生式や土師器の出土が見られる。これは其の時代を証するものである。又其の周辺から縄文早、中期の土器も出土す

江戸時代となり寛文二年（一六六二年）内藤豊前守信照棚倉城主となるや、棚倉の鹿の子山（花園）に陶器窯を造り鹿の子焼として陶器を焼く、尚真町一ノ坂に瓦窯を造り瓦を焼く、何れも多量に生産、他藩の需めにも応じた。

此の原料の陶土は鮫川の地富田中沢から出土し、大正五年（一九一六年）頃、今の中沢金沢太一氏の祖である斧次氏外四名が請負つて、毎日棚倉の窯元まで出荷したのは筆者の棚倉在学中であつた。

此の製鉄と製陶の名は棚倉とあるが、其の原料の鉄礦と陶土は、今の鮫川の地より仰いだもので、旧記には棚倉鉄、棚倉焼とあるが実質的には鮫川であるので鮫川鉄鮫川焼とするも妥当である。

鮫川の石器土器文化は縄文早期に始まり（約七千余年前）現在に至る。今も中沢から陶器の原料を生産し、関西方面にまで出荷している。

（未完）

おねがい

村内で金凝の出土する所をご存じの方がありましたら村公民館金沢次長に御一報願います。

戦没者遺族相談員

戦没者遺族の方々の福祉を一層増進するため「戦没者遺族相談員制度」が作られ、県内で一二名の方が厚生大臣から委託されました

これは各種の援護を効果的に実施して遺族福祉の一層の増進を図ろうとするものです。

本村の担当者

益子正美　西白河郡西郷村大字小田倉字上上野原一

電話白河(3)九九一一

（担当地区、白河市、西白河郡、東白川郡）

一九七一年の輝やかしい新年を迎えましたこと、みなさまとともにお喜び申し上げます。

今年も心をあらたにして、編集子一同「広報さめがわ」と共に歩むべくはりきっています。みなさま方の御叱声と御協力を一重にお願い申し上げます。

広報さめがわ
編集委員一同